

ようこそアカウンティング アカデミーへ

アカウンティング・アカデミーは、「受講生が最小の負担で簿記を学習できる」ことを理念とし、受講生の立場に立って運営することを目標としています。以下、アカウンティング・アカデミーの特徴を少し紹介させていただきます。

- シンプルに理解しよう！

簿記の基本は仕訳（しわけ）です。教材はあらかじめ仕訳を徹底的にマスターするように作成され、それをもとに講義、問題の解説が行われます。比較的短時間で簿記の本質を理解することができます。

- ムダのない教材

簿記検定試験に合格するのに必要十分な教材をあらかじめ厳選して作成しています。受講生にムダな負担をおかけすることのないようにカリキュラムが組まれています。たくさん問題を解くよりも、基本的事項を繰り返して学習する方が簿記の場合は効果的です。何回も覚えるまで教材を繰り返し学習して頂きたいと思っております。短時間で効率的に学習できる方が望ましい・・・ですよ！

- 24時間質問を受け付けています

簿記の学習が進むにつれ、分からないことや理解が不十分な部分が必ず出てきます。そこで、アカウンティング・アカデミーでは24時間インターネットで質問を受け付けます。受講生の方には安心して学習していただけます。

- 会計士・税理士が教材の作成・講師を担当しています

アカウンティング・アカデミー教材は税理士・会計士により作成されています。

ご不明な点又はご質問があれば、お気軽にご質問ください。

アカウンティング・アカデミー
管理・運営 / 有限会社ヒューマンウェブ
TEL 06(4792)3000 FAX 06(4792)3001
<http://www.ac-academy.com/>
E-mail : info@ac-academy.com

簿記検定3級講座

仕訳問題集

アカウンティング・アカデミー

運営管理：有限会社 ヒューマンウェブ

<http://www.ac-academy.com/>

All Rights Reserved

(無断転載を禁ず)

基本仕訳

最も重要で基本的な仕訳を厳選した仕訳問題集です。何回も繰り返し学習し、全部覚えるくらいまで使いこなしていただければ幸いです。後半に練習用シートが付いていますのでコピーしてご活用ください。

現金預金

1. 現金の支払い

給料 3,000 を現金で支払った。

(借) 給料 3,000 (貸) 現金 3,000

2. 現金の入金

商品の売上代金 5,000 を現金で受け取った。

(借) 現金 5,000 (貸) 売上 5,000

3. 現金過不足

(1) 現金の実際残高が帳簿残高より 2,000 不足していたので、現金過不足勘定に振り替えた。

(借) 現金過不足 2,000 (貸) 現金 2,000

(2) 現金過不足の原因の一部が、旅費の支払い分 1,500 であることが判明した。

(借) 旅費交通費 1,500 (貸) 現金過不足 1,500

(3) 決算になり、上記の現金過不足の残高の原因が判明しなかったため、雑損失勘定に振り替えた。

(借) 雑損失 500 (貸) 現金過不足 500

4. 小口現金

(1) 営業課に 10,000 の小口現金を支給した。

(借) 小口現金 10,000 (貸) 現金 10,000

(2) 営業課から次のような支払報告があった。通信費 1,200 旅費交通費 3,000 水道光熱費 5,000。

(借) 通信費 1,200 (貸) 小口現金 9,200

旅費交通費 3,000

水道光熱費 5,000

(3) 期末に営業課に 9,200 の小口現金を補給した。(インプレストシステム)

(借) 小口現金 9,200 (貸) 現金 9,200

5.小切手の受取り

(1)売上代金 2,000 を他店振出しの小切手で受け取った。

(借) 現 金 2,000 (貸) 売 上 2,000

(2)売上代金 2,000 を当店振出しの小切手で受け取った。

(借) 当 座 預 金 2,000 (貸) 売 上 2,000

6.小切手の振り出し

機械装置 500,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

(借) 機 械 装 置 500,000 (貸) 当 座 預 金 500,000

7.当座借越

(1)当社は銀行と 800,000 を限度とした当座借越契約を締結している。前日の当座預金残高は 200,000 だったが、本日備品を購入し、500,000 の小切手を振り出した。

(借) 備 品 500,000 (貸) 当 座 預 金 200,000
当 座 借 越 300,000

(2)翌日に、現金 600,000 を当座預金に預け入れた。

(借) 当 座 預 金 300,000 (貸) 現 金 600,000
当 座 借 越 300,000

商品売買

1.商品の仕入れ

商品 30,000 を現金で仕入れた。その際に引き取り運賃 1,000 を現金で支払った

(借) 仕 入 31,000 (貸) 現 金 31,000

2.商品の返品

先に現金で仕入れた商品のうち、5,000 が不良品だったので、返品した。

(借) 現 金 5,000 (貸) 仕 入 5,000

3.売掛金

(1)当社は A 社に商品 400,000 を掛けで販売した。

(借) 売 掛 金 400,000 (貸) 売 上 400,000

(2)売掛金 400,000 について小切手を受け取った。

(借) 現 金 400,000 (貸) 売 掛 金 400,000

(3)得意先 B 社が倒産し、当期に発生した売掛金 3,000 が貸倒れた。

(借) 貸 倒 損 失 3,000 (貸) 売 掛 金 3,000

(4)得意先 B 社が倒産し、前期に発生した売掛金 3,000 が貸倒れた。なお当社は貸倒引当金を 2,000 設定していた。

(借) 貸倒引当金	2,000	(貸) 売掛金	3,000
貸倒損失	1,000		

受取手形

1. 約束手形の受取り

B 社に対する売掛金 40,000 の決済にあたり、B 社振出しの約束手形を受け取った。

(借) 受取手形	40,000	(貸) 売掛金	40,000
----------	--------	---------	--------

2. 手形の裏書譲渡

当社は商品 2,000 を購入するにあたり、B 社振出しの約束手形を裏書譲渡した。

(借) 仕入	2,000	(貸) 受取手形	2,000
--------	-------	----------	-------

3. 手形の割引

所有受取手形 30,000 を銀行で割引き、支払利息割引料 200 を差し引かれ残額は当座預金に入金した。

(借) 当座預金	29,800	(貸) 受取手形	30,000
手形売却損	200		

4. 為替手形

得意先に対する売掛金と仕入先に対する買掛金を相殺するために得意先に対して為替手形 50,000 を振り出した。

(借) 買掛金	50,000	(貸) 売掛金	50,000
---------	--------	---------	--------

貸付金

1. 金銭の貸付

当社は J 社に 200,000 を貸し付け、小切手を振出した。

(借) 貸付金	200,000	(貸) 当座預金	200,000
---------	---------	----------	---------

2. 貸付金の返済

J 社は当社が貸し付けていた 200,000 について、利息分 1,000 とともに現金で返済した。

(借) 現金	201,000	(貸) 貸付金	200,000
		受取利息	1,000

借入金**1. 金銭の借入**

当社は P 社から現金 30,000 を借入れた。

(借) 現 金 30,000 (貸) 借 入 金 30,000

2. 借入金の返済

当社は P 社からの借入金 30,000 を利息 1,000 とともに支払った。

(借) 借 入 金 30,000 (貸) 現 金 31,000
支払利息割引料 1,000

未収金

当社は R 社に土地 600,000 を売却し、代金は月末に受け取ることとした。

(借) 未 収 金 600,000 (貸) 土 地 600,000

未払金

当社は備品 800,00 を購入し、代金は月末に払うこととした。

(借) 備 品 800,000 (貸) 未 払 金 800,000

前渡金

当社は F 社の商品 300,000 を購入するにあたり、F 社から手付金 100,000 の支払を求められたので、現金で支払った。

(借) 前 渡 金 100,000 (貸) 現 金 100,000

前受金

当社は商品 100,000 を販売するにあたり、得意先に手付金 10,000 の支払を求め、現金で受け取った。

(借) 現 金 10,000 (貸) 前 受 金 10,000

立替金・預り金

従業員の給料 100,000 を支払うにあたり、源泉所得税 20,000 および従業員への立替金 10,000 を差し引いて残額を現金で支払った。

(借) 給 料 100,000 (貸) 現 金 70,000
預 り 金 20,000
立 替 金 10,000

仮払金

1. 従業員が出張するにあたり、現金 30,000 を渡した

(借) 仮 払 金 30,000 (貸) 現 金 30,000

2. 従業員が出張から戻り、仮払金 30,000 のうち旅費交通費が 25,000 である旨の報告を受けた。

(借) 旅 費 交 通 費 25,000 (貸) 仮 払 金 30,000
現 金 5,000

仮受金

1. 当社の当座預金に 400,000 の入金があったが、その原因は不明である。

(借) 当 座 預 金 400,000 (貸) 仮 受 金 400,000

2. 仮受金として処理していた当座預金 400,000 について、売掛金の入金であることが判明した。

(借) 仮 受 金 400,000 (貸) 売 掛 金 400,000

有価証券の購入

当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 490,000 を購入し、買入手数料 10,000 とともに現金で支払った。

(借) 有 価 証 券 500,000 (貸) 現 金 500,000

有価証券の売却

1. 当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 500,000 を 600,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

(借) 現 金 600,000 (貸) 有 価 証 券 500,000
有 価 証 券 売 却 益 100,000

2. 当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 500,000 を 400,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

(借) 現 金 400,000 (貸) 有 価 証 券 500,000
有 価 証 券 売 却 損 100,000

固定資産の購入

当社は土地を 7,000,000 で購入し、仲介手数料 100,000 とともに現金で支払った。

(借) 土 地 7,100,000 (貸) 現 金 7,100,000

固定資産の売却

1. 当社は期首に自社ビル (取得原価 6,000,000、減価償却累計額 1,000,000) を 5,200,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。(記帳方法は直接法によっている)

(借) 未 収 金 5,200,000 (貸) 建 物 5,000,000
固定資産売却益 200,000

2. 当社は期首に自社ビル (取得原価 6,000,000、減価償却累計額 1,000,000) を 4,500,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。(記帳方法は間接法によっている)

(借) 未 収 金 4,500,000 (貸) 建 物 6,000,000
建物減価償却累計額 1,000,000
固定資産売却損 500,000

資本金

1. 事業主が現金 3,000,000 を元入れ(出資)して開業した。

(借) 現 金 3,000,000 (貸) 資 本 金 3,000,000

2. 事業主が私用のため、企業から現金 100,000 を引き出した。(引出金勘定を用いること)

(借) 引 出 金 100,000 (貸) 現 金 100,000

3. 決算に際し、引出金勘定の残高 100,000 を資本金勘定に振り替えた。

(借) 資 本 金 100,000 (貸) 引 出 金 100,000

決算整理仕訳

売上原価の算定

次の資料を基に当期の売上原価を算定するための決算整理仕訳を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で算定している。

(期首商品棚卸高：300,000、当期商品仕入高：1,200,000、期末商品棚卸高：400,000)

(借) 仕	入	300,000	(貸) 繰	越	商	品	300,000
(借) 繰	越	商	品	400,000	(貸) 仕	入	400,000

有価証券の評価替え

1. 当期に 100,000 で取得した売買目的有価証券の期末時価が 95,000 になっている。有価証券に関する決算整理仕訳をしなさい。

(借) 有価証券評価損	5,000	(貸) 有価証券	5,000
-------------	-------	----------	-------

2. 当期に 100,000 で取得した売買目的有価証券の期末時価が 102,000 になっている。有価証券に関する決算整理仕訳をしなさい。

(借) 有価証券	2,000	(貸) 有価証券評価益	2,000
----------	-------	-------------	-------

減価償却費の計算

1. 次の資料に基づき、建物に関する決算整理仕訳を行いなさい。

建物の取得原価：1,000,000、耐用年数：9 年、残存価額：100,000 である。定額法により減価償却費を計上する。(記帳方法は直接法によっている)

(借) 建物減価償却費	100,000	(貸) 建物	100,000
-------------	---------	--------	---------

2. 次の資料に基づき、建物に関する決算整理仕訳を行いなさい。

建物の取得原価：1,000,000、耐用年数：9 年、残存価額：100,000 である。定額法により減価償却費を計上する。(記帳方法は間接法によっている)

(借) 建物減価償却費	100,000	(貸) 建物減価償却累計額	100,000
-------------	---------	---------------	---------

貸倒引当金の設定

1. 期末売上債権残高 100,000 に対し 2% の貸倒引当金を設定しなさい。なお、決算整理前の貸倒引当金期末残高は 1,500 であった。

(借) 貸倒償却	500	(貸) 貸倒引当金	500
----------	-----	-----------	-----

2. 期末売上債権残高 100,000 に対し 2% の貸倒引当金を設定しなさい。なお、決算整理前の貸倒引当金期末残高は 3,000 であった。

(借) 貸 倒 引 当 金 1,000 (貸) 貸倒引当金戻入益 1,000

費用の見越

水道光熱費の見越が 3,000 ある。

(借) 水 道 光 熱 費 3,000 (貸) 未払水道光熱費 3,000

費用の繰延

水道光熱費の繰延が 1,000 ある。

(借) 前払水道光熱費 1,000 (貸) 水 道 光 熱 費 1,000

収益の見越

受取家賃の見越が 4,000 ある。

(借) 未 収 家 賃 4,000 (貸) 受 取 家 賃 4,000

収益の繰延

受取家賃の繰延が 3,000 ある。

(借) 受 取 家 賃 3,000 (貸) 前 受 家 賃 3,000

消耗品(消耗品費)

1.(1) 消耗品 10,000 を購入し、消耗品費として費用計上した。代金は現金で支払った。

(借) 消 耗 品 費 10,000 (貸) 現 金 10,000

(2) 決算時の消耗品期末未使用高は 3,000 であった。決算整理仕訳を示しなさい。

(借) 消 耗 品 3,000 (貸) 消 耗 品 費 3,000

2.(1) 消耗品 10,000 を購入し、消耗品として資産計上した。代金は現金で支払った。

(借) 消 耗 品 10,000 (貸) 現 金 10,000

(2) 決算時の消耗品期末未使用高は 3,000 であった。決算整理仕訳を示しなさい。

(借) 消 耗 品 費 7,000 (貸) 消 耗 品 7,000

仕訳問題集 練習用シート

現金預金

1.現金の支払い

給料 3,000 を現金で支払った。

(借)

(貸)

2.現金の入金

商品の売上代金 5,000 を現金で受け取った。

(借)

(貸)

3.現金過不足

(1)現金の実際残高が帳簿残高より 2,000 不足していたので、現金過不足勘定に振り替えた。

(借)

(貸)

(2)現金過不足の原因の一部が、旅費の支払い分 1,500 であることが判明した。

(借)

(貸)

(3)決算になり、上記の現金過不足の残高の原因が判明しなかったので、雑損失勘定に振り替えた。

(借)

(貸)

4.小口現金

(1)営業課に 10,000 の小口現金を支給した。

(借)

(貸)

(2)営業課から次のような支払報告があった。通信費 1,200 旅費交通費 3,000 水道光熱費 5,000。

(借)

(貸)

(3)期末に営業課に 9,200 の小口現金を補給した。(インプレストシステム)

(借)

(貸)

5.小切手の受取り

(1)売上代金 2,000 を他店振出しの小切手で受け取った。

(借)

(貸)

(2)売上代金 2,000 を当店振出しの小切手で受け取った。

(借) (貸)

6.小切手の振り出し

機械装置 500,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

(借) (貸)

7.当座借越

(1)当社は銀行と 800,000 を限度とした当座借越契約を締結している。前日の当座預金残高は 200,000 だったが、本日備品を購入し、500,000 の小切手を振り出した。

(借) (貸)

(2)翌日に、現金 600,000 を当座預金に預け入れた。

(借) (貸)

商品売買

1.商品の仕入れ

商品 30,000 を現金で仕入れた。その際に引き取り運賃 1,000 を現金で支払った

(借) (貸)

2.商品の返品

先に現金で仕入れた商品のうち、5,000 が不良品だったので、返品した。

(借) (貸)

3.売掛金

(1)当社は A 社に商品 400,000 を掛けで販売した。

(借) (貸)

(2)売掛金 400,000 について小切手を受け取った。

(借) (貸)

(3)得意先 B 社が倒産し、当期に発生した売掛金 3,000 が貸倒れた。

(借) (貸)

(4)得意先 B 社が倒産し、前期に発生した売掛金 3,000 が貸倒れた。なお当社は貸倒引当金を 2,000 設定していた。

(借) (貸)

受取手形

1. 約束手形の受取り

B 社に対する売掛金 40,000 の決済にあたり、B 社振出しの約束手形を受け取った。

(借) (貸)

2. 手形の裏書譲渡

当社は商品 2,000 を購入するにあたり、B 社振出しの約束手形を裏書譲渡した。

(借) (貸)

3. 手形の割引

所有受取手形 30,000 を銀行で割引き、支払利息割引料 200 を差し引かれ残額は当座預金に入金した。

(借) (貸)

4. 為替手形

得意先に対する売掛金と仕入先に対する買掛金を相殺するために得意先に対して為替手形 50,000 を振り出した。

(借) (貸)

貸付金

1. 金銭の貸付

当社は J 社に 200,000 を貸し付け、小切手を振出した。

(借) (貸)

2. 貸付金の返済

J 社は当社が貸し付けていた 200,000 について、利息分 1,000 とともに現金で返済した。

(借) (貸)

借入金

1. 金銭の借入

当社は P 社から現金 30,000 を借入れた。

(借) (貸)

2. 借入金の返済

当社は P 社からの借入金 30,000 を利息 1,000 とともに支払った。

(借)

(貸)

未収金

当社は R 社に土地 600,000 を売却し、代金は月末に受け取ることとした。

(借)

(貸)

未払金

当社は備品 800,00 を購入し、代金は月末に払うこととした。

(借)

(貸)

前渡金

当社は F 社の商品 300,000 を購入するにあたり、F 社から手付金 100,000 の支払を求められたので、現金で支払った。

(借)

(貸)

前受金

当社は商品 100,000 を販売するにあたり、得意先に手付金 10,000 の支払を求め、現金で受け取った。

(借)

(貸)

立替金・預り金

従業員の給料 100,000 を支払うにあたり、源泉所得税 20,000 および従業員への立替金 10,000 を差し引いて残額を現金で支払った。

(借)

(貸)

仮払金

1. 従業員が出張するにあたり、現金 30,000 を渡した
(借) (貸)
2. 従業員が出張から戻り、仮払金 30,000 のうち旅費交通費が 25,000 である旨の報告を受けた。
(借) (貸)

仮受金

1. 当社の当座預金に 400,000 の入金があったが、その原因は不明である。
(借) (貸)
2. 仮受金として処理していた当座預金 400,000 について、売掛金の入金であることが判明した。
(借) (貸)

有価証券の購入

- 当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 490,000 を購入し、買入手数料 10,000 とともに現金で支払った。
- (借) (貸)

有価証券の売却

1. 当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 500,000 を 600,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
(借) (貸)
2. 当社は Y 社の株式 (売買目的有価証券) 500,000 を 400,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
(借) (貸)

固定資産の購入

当社は土地を 7,000,000 で購入し、仲介手数料 100,000 とともに現金で支払った。

(借)

(貸)

固定資産の売却

1.当社は期首に自社ビル(取得原価 6,000,000、減価償却累計額 1,000,000)を 5,200,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。(記帳方法は直接法によっている)

(借)

(貸)

2.当社は期首に自社ビル(取得原価 6,000,000、減価償却累計額 1,000,000)を 4,500,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。(記帳方法は間接法によっている)

(借)

(貸)

資本金

1.事業主が現金3,000,000を元入れ(出資)して開業した。

(借)

(貸)

2.事業主が私用のため、企業から現金100,000を引き出した。(引出金勘定を用いること)

(借)

(貸)

3.決算に際し、引出金勘定の残高100,000を資本金勘定に振り替えた。

(借)

(貸)

決算整理仕訳

売上原価の算定

次の資料を基に当期の売上原価を算定するための決算整理仕訳を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で算定している。

(期首商品棚卸高：300,000、当期商品仕入高：1,200,000、期末商品棚卸高：400,000)

(借)	(貸)
(借)	(貸)

有価証券の評価替え

1. 当期に 100,000 で取得した売買目的有価証券の期末時価が 95,000 になっている。有価証券に関する決算整理仕訳をしなさい。

(借)	(貸)
-----	-----

2. 当期に 100,000 で取得した売買目的有価証券の期末時価が 102,000 になっている。有価証券に関する決算整理仕訳をしなさい。

(借)	(貸)
-----	-----

減価償却費の計算

1. 次の資料に基づき、建物に関する決算整理仕訳を行いなさい。

建物の取得原価：1,000,000、耐用年数：9 年、残存価額：100,000 である。定額法により減価償却費を計上する。(記帳方法は直接法によっている)

(借)	(貸)
-----	-----

2. 次の資料に基づき、建物に関する決算整理仕訳を行いなさい。

建物の取得原価：1,000,000、耐用年数：9 年、残存価額：100,000 である。定額法により減価償却費を計上する。(記帳方法は間接法によっている)

(借)	(貸)
-----	-----

貸倒引当金の設定

1. 期末売上債権残高 100,000 に対し 2% の貸倒引当金を設定しなさい。なお、決算整理前の貸倒引当金期末残高は 1,500 であった。

(借)	(貸)
-----	-----

2. 期末売上債権残高 100,000 に対し 2% の貸倒引当金を設定しなさい。なお、決算整理前の貸倒引当金期末残高は 3,000 であった。

(借) (貸)

費用の見越

水道光熱費の見越が 3,000 ある。

(借) (貸)

費用の繰延

水道光熱費の繰延が 1,000 ある。

(借) (貸)

収益の見越

受取家賃の見越が 4,000 ある。

(借) (貸)

収益の繰延

受取家賃の繰延が 3,000 ある。

(借) (貸)

消耗品(消耗品費)

1.(1) 消耗品 10,000 を購入し、消耗品費として費用計上した。代金は現金で支払った。

(借) (貸)

(2) 決算時の消耗品期末未使用高は 3,000 であった。決算整理仕訳を示しなさい。

(借) (貸)

2.(1) 消耗品 10,000 を購入し、消耗品として資産計上した。代金は現金で支払った。

(借) (貸)

(2) 決算時の消耗品期末未使用高は 3,000 であった。決算整理仕訳を示しなさい。

(借) (貸)